

企画展

2021 4.24(土)・9.26(日)

主催: ニュースパーク  
日本新聞博物館

# 伝える、寄り添う、守る —「3・11」から10年



東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から10年。被災地では復興への歩みが進む一方、被災者の生活再建や心のケア、産業再生などの課題があります。福島には帰還困難区域も残っています。人口減少や高齢化といった全国共通の課題も、重くのしかかります。被災地の新聞はあの日から毎日、震災や原発事故関連のニュースや話題をさまざまな形で伝え続けています。確かな情報を伝え、日々を記録するだけでなく、そこに暮らす人々の悩みや思いに寄り添い、復興に向けた大きな力と

なっています。そして、震災以降頻発する自然災害から人々を守るため、全国各地で新聞報道の枠を越えた取り組みが広がっています。

本展では10年間の紙面や写真、記者らの寄稿を通じて、被災地の地元紙を中心に新聞社の報道ぶりや思いを紹介します。全国に広がりつつある新聞社の防災・減災の取り組みも取り上げます。関東大震災を報じた大正期の紙面などを通じて、デマや流言が広がりやすい災害時の情報との向き合い方についても考えます。

特別協力

岩手日報社 / 河北新報社 / 福島民報社 / 福島民友新聞社



同時開催

## 東京五輪・パラリンピック報道展

幻の一九四〇東京五輪からTOKYO2020まで



企画展

2021 4.24土・9.26日

■2021年3月11日付紙面

# 伝える、寄り添う、守る —「3・11」から10年

会場 ニュースパーク(日本新聞博物館)  
2階企画展示室

開館時間 10:00~16:30(入館16:00まで)※新型コロナウイルス対応  
休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合は次の平日)  
主催 ニュースパーク(日本新聞博物館)  
特別協力 岩手日報社/河北新報社/福島民報社/福島民友新聞社  
後援 神奈川県教育委員会/横浜市教育委員会/川崎市教育委員会



## ■表写真解説

- ①宮城県気仙沼市の鹿折地区 津波で内陸に押し流された大型漁船があちこちに転がっていた=2011年4月21日(河北新報社提供)
- ②消防屯所の止まったままの時計=2021年2月11日 福島県双葉町(福島民友新聞社提供)
- ③自宅跡に設けた祭壇に手を合わせる男性=2020年3月11日 福島県双葉町(福島民友新聞社提供)
- ④岩手県大槌町 教職員の車や教材、ガラスが散乱した大槌小学校庭(右奥が校舎)=2011年3月13日(岩手日報社提供)
- ⑤津波で壊されたままの墓石や地蔵=2021年2月11日 福島県双葉町(福島民友新聞社提供)
- ⑥放射性物質トリチウムを含んだ処理水の貯蔵タンクが並ぶ東京電力福島第一原発=2021年2月16日(福島民報社提供)
- ⑦思い出の品探し 旧気仙中学校舎=2020年9月17日 岩手県陸前高田市(岩手日報社提供)
- ⑧常磐道全線開通 道路沿いには空間放射線量の表示板が設置されている=2015年3月1日 福島県浪江町(福島民報社提供)
- ⑨国道6号沿いにオープンした「道の駅なみえ」=2020年8月1日 福島県浪江町(福島民報社提供)
- ⑩全面開園した南三陸町震災復興記念公園=2020年10月12日 宮城県南三陸町(河北新報社提供)
- ⑪新設された町産業交流センターで繰り広げられた「巨大ダルマ引き」=2021年1月9日 福島県双葉町(福島民報社提供)
- ⑫岩手県大槌町 基盤整備が終了し住宅が立ち並ぶ町役場周辺=2021年1月6日(岩手日報社提供)
- ⑬「水を運ぶ少年」20歳に=2021年1月10日 宮城県気仙沼市(河北新報社提供)
- ⑭三陸鉄道 台風禍からの運行再開=2020年3月20日 岩手県山田町(岩手日報社提供)
- ⑮自分で収穫したミカンを食べる子どもたち=2020年12月4日 福島県広野町(福島民友新聞社提供)
- ⑯宮城県気仙沼市の鹿折地区 かさ上げた土地に新たな町が姿を現した=2020年6月17日(河北新報社提供)

### I 「伝える」——新聞報道の10年

10年間の新聞各紙の報道を、記者らの思いとあわせて紹介します。

### II 「寄り添う」——被災地の今

復興への歩みや課題を、特別協力4紙の報道写真を通じて紹介します。

### III 「守る」——新聞の使命

災害時の新聞の役割や、全国に広がる防災・減災に向けた取り組みを紹介します。  
災害時の情報との向き合い方について、過去の事例も含めて考えます。

## ■アクセス



みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口(情文センター口)直結  
JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分  
横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」徒歩1分  
車で首都高速「横浜公園出口」から約3分

## 同時開催

# 東京五輪・パラリンピック報道展 幻の一九四〇東京五輪からTOKYO2020まで



東京はこれまで3回オリンピック開催都市に選ばれました。1940は時局の悪化から中止となり、1964は戦争からの復興と発展を披露、そして2020はコロナ禍に翻弄されています。時代を色濃く反映する東京を舞台にしたオリンピックとパラリンピックを、どのように新聞が報道してきたかを紹介します。

主催 ニュースパーク(日本新聞博物館)  
協力 公益財団法人新聞通信調査会、東京写真記者協会  
後援 横浜市市民局